

## 慢性腎臓病 (CKD: chronic kidney disease) って？

腎臓の働きが悪くなると尿を作る力が衰えるだけでなく、様々な体の不調が出てきます。日本では、様々な原因で腎臓の働きが衰え、透析療法を行っておられる患者さんは25万人を超えました。生活習慣が欧米化してきた日本では糖尿病も増加しており、糖尿病を原因として腎臓の働きが衰えてくる患者さんも増加しています。この事は医療経済的にも負担が大きい事が示されています。

しかし重要な点は、経済的な面ではなく、慢性腎臓病の患者さんは腎臓の機能が衰えた状態（慢性腎不全）の状態に至らなくとも、狭心症や心筋梗塞といった心血管系疾患の危険性が高い事にあります。

慢性腎臓病 (CKD: chronic kidney disease) の診断基準は

- 1) 蛋白尿や腎臓の形態変化など腎臓に病気が存在することを示す所見
- 2) もしくは糸球体濾過量が 60ml/分/1.73m<sup>2</sup> 以下が3ヶ月以上続くものとされています。

???なかなか難解ですね。病院や健診で受けられる検査としては、まずは尿蛋白検査と腎臓の機能を反映する血液検査(尿素窒素: BUN, クレアチニン: Cre)など異常が発見のきっかけになります。これらの検査値の異常が3ヶ月続くようであれば、今後も同様の状態が続く事によって腎臓の機能が衰えていく可能性があり、心筋梗塞や狭心症の危険性も高いという事です。ですから、まずは定期的な健康診断を継続的に受けられる事が重要になりますし、健診で尿蛋白に異常ありという事でしたら、放っておかずに受診をなさらないといけませんね。

一方で、慢性腎臓病の病状の進行する仕組みに関して様々な事が明らかになり、腎機能の悪化を抑制できるようになってきたので、最近非常に注目を集めるようになりました。腎臓の機能には血圧も大きく関わりがあります。慢性腎臓病と診断されても、血圧をしっかりコントロールする事やお薬できちんと管理する事で、上記のような危険性を抑制することもわかっていますので、通院中の患者さんは是非主治医にお伺いいただき、そうでない方は定期健診を必ず受けるように心がけてください。腎疾患は若いうちから発症される方もおられますので、若い方でも健診は欠かさないようにする必要があります。

(文責：大西)